



新潟県ソウル事務所発 韓国レポート



2020.7.28

<第 25 回レポート>

【ソウル事務所赴任記①】新型コロナウイルス対策のため、近いのに遠い国に！ ～ 韓国入国から隔離場所到着まで ～

これまで新潟・ソウル間は飛行機で2時間ほど、短期滞在(90 日以内)であればビザなしで入国できた最も近い外国・韓国ですが、新型コロナウイルス感染症対策により状況が一変、近いのに時間がかかる「遠い国」になっています。

8 月 1 日のソウル事務所着任に向けて少し早めに準備を始めたものの、駐在員ビザ取得手続きに日本で新たに医療機関の診断書等が必要となるなど発給まで約 1 か月を要しました。また、韓国行きほとんどの地方路線は現在運休中で成田空港と関西空港のみ就航している状況です。

7 月 16 日、新潟を出発し成田空港に到着しましたが、いつもは賑わっている売店やレストランは多くが閉店し、利用者もほとんどいなくて寂しい限りです。チェックイン前の検温などを経て出国審査を通過し飛行機に搭乗、いざ出発です。



(写真)成田空港チェックインカウンター



(写真)隣接の売店・レストランエリア

機内では通常の入国・税関申告に加え、コロナ対策のため入国時に必要な健康状態質問書・特別検疫申告書が配布されました。この日の便の搭乗率は見た目で 3～4 割くらいで、思ったよりも搭乗者が多かったという印象です。

16 時前に韓国入国です。コロナ対策のため検疫が強化されており、まずは自宅隔離者安全保護アプリをダウンロードします。これは入国後 2 週間、自宅待機もしくは指定場所での隔離が必要となり、期間中毎日 2 回、体温や体調等を入力して報告するもので、居場所も把握されるようです。その後、検温も受けましたが無事クリアしました。

次に、ダウンロードアプリへの住所や電話番号等の入力を、韓国陸軍が行政支援として業務にあたり、英語や韓国語で書類・連絡先等を提示して手続を行うのですが、アクリル板を通してのやりとりということもあり確認に若干手間取ります。

この後、関連する書類記入やその確認を受けようやく検疫が終了。飛行機到着後、ここまでの 1 時間が経過しました。

駐在員等の長期滞在者にとっての最大の難関である入国審査はあっさり終了。預け荷物をピックアップ、税関を通過し、到着ロビーで案内係から隔離対象者としての目印シールを装着され、コロナ対策専用の移動場所まで誘導されました。



(写真)検疫の状況



(写真)隔離対象者としての目印シール

ソウル市内行きの専用バスは 17 時発ですが、間に合わずその次が 20 時のため、専用タクシーを利

用することにしました。PCR 検査のための保健所を経由し宿泊場所(私の場合、ソウル市指定のホテル)まで輸送してくれます。

タクシーは運転席周りに防護シールドがあり感染対策が取られています。夕方の渋滞時間のため、ソウル市内にある保健所への到着は 18 時半を過ぎていました。ここでさらに書類等を記入の上、PCR 検査を受けます。

ウォークスルー方式と呼ばれる、アクリルのシールド越しに医師と対面するブースに入り、ゴム手袋越しに医師の手だけが私の方へ伸びてきて、鼻と口に綿棒を当てられ検査終了ですが、結構痛くてつらかったです。

ちなみに私の後ろにある絵(下の写真)は、コロナ対策に従事する医療関係者に感謝する趣旨のものです。



(写真)運転席周辺の防護シールド

16 時前の仁川空港到着から 3 時間強、新潟出発からは 12 時間が経過し、やっとソウル市指定の宿泊場所となるホテルにチェックインとなりました。

これからの韓国での 2 週間の隔離生活では、食事は部屋のドア前への置き配で受け取り、ごみも決まった日に部屋のドア前に出すなど、部屋から一歩も外に出られなくなります。

事務所に着任するまであと 2 週間、今後の隔離生活の状況についても報告します。「遠い国」韓国への道のりはまだ半ばといったところです。



(写真)PCR 検査室



(写真)医療従事者への感謝の絵



(写真)ホテル客室前に並ぶゴミ箱